

2019 文化で滋賀を元気に!賞



大賞 故郷を育む伊吹の恵み（そば）文化賞

伊吹そば生産組合（組合長 伊富貴 忠司さん）／米原市

（受賞者・団体／主な活動地域 以下同じ）

〔講評〕

伊吹山でのそばの歴史は平安時代後期から鎌倉時代にかけて太平護国寺で修行僧の食糧として、栽培されたのが始まりとされている。江戸時代にそば畑が描かれた伊吹山地域の絵図があり、松尾芭蕉の弟子・森川許六が編んだ「本朝文選」（1706年）にも「伊吹蕎麦。天下にかくれなければ」と記載されるなど、上質なそばの産地として知られていた。在来種の伊吹そばの生産地である太平寺地区は、周囲を山に囲まれ、他品種との交雑がされにくかったという。明治期にはそば畑が298箇所もあったとの記録が残っている。しかし、昭和中期の集団離村以降、付近で細々と農家が自家用に育てる程度に減少していた。

伊吹そばの本格的な復興への取り組みがスタート、今後の課題は栽培面積を増やして安定的な収穫量を目指すことである。天候に左右されやすく、収穫量が多くないので、地元でも在来種の伊吹そばだけを味わえる店は少ない。伊吹そばは小粒であることから甘皮（種皮）の部分が多くなり、そば粉にすると甘みがあり、香り高い。地元の人でも知らない人も多く、各家庭を訪問して伊吹そばを食べてもらう地道な活動も行われてきた。希少な伊吹そばで多くの人を呼び込み故郷の発展にかける皆さんの情熱を評価し、伊吹ならではの食文化のさらなる展開を期待したい。

受賞団体について

伊吹山の山麓には伊吹そばと言われる在来種のそばが古くから栽培されており、細々と現代に受け継がれてきた。この在来種の伊吹そばを地元特産品として活用、町おこしにつなげようと、県と地元の農家ら有志が協力、1995年から本格的な生産に乗り出した。当時、自家用に育てていた農家の協力で、そばの実を分けてもらうなどの堅実な活動から少しずつ作付けを拡大、生産量を増やしてきた。この間2013年度には日本蕎麦協会主催の全国そば優良生産表彰（団体の部）で「農林水産省生産局長賞」を受賞、伊吹そばの更なるブランド化を高めるため、2016年「伊吹そば生産組合」を発足させた。伝統的な生産方法や気候・風土・土壌などが、品質等の特性に結びついている製品の名称を知的財産として登録し、保護する農林水産省の「地理的表示（GI）保護制度」登録を目指した。

米原市役所の協力もあり、歴史考察、地元でのPR活動などを行いながら、申請から3年半以上の期間をかけて2019年9月、GI登録が認定された。GI登録で認定は滋賀県では「近江牛」に続き2例目、そばでは「対州蕎麦」に次いで全国で2例目となる。

■表彰の種類

- (1) 各賞 文化で滋賀を明るく元気にし、活力あふれる地域社会の実現に貢献している団体または個人（若干名）
- (2) 大賞 (1)の受賞候補のうち最も評価された団体または個人（1名）
- (3) 各賞の名称は、推薦者からの提案に基づき決定

■表彰式 令和2年2月11日（火・祝）15:25～ 琵琶湖ホテル3階「瑠璃」※受賞者には賞状と記念のトロフィー（陶芸家 川崎千足氏制作）、賞金を贈呈。

■募集期間 令和元年8月1日（木）～令和元年10月31日（木）

■候補者 募集期間内に推薦書を文化・滋賀フォーラム事務局に提出。自薦、他薦は問わない。

■選考 令和元年12月12日（木）選考委員会で審査を行い、大賞・各賞を選考。

選考委員 饗場 貴子〔元・大津青年会議所理事長〕、秋村 洋〔(株)ブラネットリピング代表取締役〕、南 千勢子〔ピアニスト〕、山中 隆〔(公財)びわ湖芸術文化財団理事長〕、山本 勝義〔(株)ビルディング・コンサルタントワイズ代表取締役〕

表彰概要

松明結いで、世代をつなぐ文化賞



文化遺産としての松明を次世代へ贈る会 （会長 大西 實さん）／近江八幡市

近江八幡市内では毎年3～5月にかけて各集落であわせて大小200基を超える松明を結い、奉火されてきた。なかでも千年の歴史を持つ伝統的な火祭り「八幡祭」などは国選択の無形民俗文化財にもなっている。まちづくり会社「まっせ」と近江八幡商工会議所は「口承で作り方を伝えていく」地域の松明を多くの人に知ってもらいたいと市民イベント「たいまつフェス」を2011年から開催してきた。

少子高齢化による祭りの担い手不足や材料の菜種ガラの調達などの課題を解決しようと、2014年「文化遺産としての松明を次世代へ贈る会」が設立され、松明結いの技術の保存・伝承と後継者の育成、伝統文化を通して地域活性化を目指している。

同会メンバーが講師となり、初心者や子供向けの松明作りやしめ縄、ミニチュア松明体験教室などを開催。大学や市内の商業施設などでは、年齢に関係なく高さ4メートルもの伝統的な松明作りにも挑んだ。世代を超えて助け合い、協力して作り上げる松明によって人とのつながりを強め、町づくりに発展させている同会の取り組みを評価し、これからも世代を超えた活動に期待し、地域に伝わる大切な伝統文化を守り伝え続けてほしい。

心を紡ぐコンサート、平和と希望を届ける文化賞

チャペルコンサート実行委員会 （代表 宮田 誉夫さん）／草津市



日本キリスト教団草津教会礼拝堂を会場に年3回程度開催されてきたチャペルコンサート「スノードロップ」が注目されている。ヴォーリズ氏の設計の木造建築で親しまれている礼拝堂を舞台に育児中の母親らや地域の人々に心安らぐ音楽に触れてもらい、平和への祈りにもつなげようと主にクラシック音楽を中心に多彩な演奏会が開かれてきた。今年30周年を迎え、秋には100回目の記念コンサートが催される予定だ。

当時、教会敷地内にある信愛幼稚園のクラシック音楽好きな母親らが、子どもの保育中に温かい雰囲気のある礼拝堂で、心を豊かにするひと時をと「チャペルコンサート実行委員会」を結成した。現在、卒園生の保護者ら約10人が活動している。被災地などへ寄付するチャリティー演奏会として、誰もが楽しめる手軽な入場料を設定しながらも、質の高い音楽家による演奏を楽しむことを目指してきた。出演には趣旨を理解してくれる国内外の音楽家らに依頼。リハーサルは園児に演奏が披露され、目を輝かせ、体いっぱい喜び子どもたち。生の音楽の力で成長していく子どもたちの姿を見守ってきた。

誰もが楽しめる地元の音楽会として定着し、多くの子どもの成長を音楽で見守ってきた同会の役割を評価し、これからも多くの人の心に感動と喜びを届け続けてほしい。

お寺で抽象画展文化賞

西村 尚大さん（文学の会）／東近江市



街並み全体を会場に毎秋、東近江市五箇荘金堂町などで開かれているイベント「ぶらりまちかど美術館・博物館」の時期に合わせて同町の国の重要文化財「弘誓寺（ぐぜいじ）」で続けられている抽象画の展覧会（主催：文学の会）が昨秋15年目を迎えた。大津市在住の画家、石井豊太さんと「国画会」の仲間らが参加し、100号以上や横320センチ縦90センチの作品などの大作も出品、本堂の外側の回廊に並んだ十数点の力作が評判を呼んでいる。石井さんをよく知る建築家の西村尚大さんが石井さんの作品と古刹のたたずまいとの相性の良さに目をつけたのがきっかけだった。当初は個展としてスタート。会場の本堂は国重要文化財のため、くぎが打てず、西村さんの建築の知識を生かし、くさびを利用するなどの苦心も。

住職的那須和範さんが会場提供と作品管理など、地元ゆかりの画家、野村文学を顕彰する市民グループ「文学の会」の西村さんの所属するメンバーは会場案内や受付など展覧会運営に協力してきた。展覧会の人気の高まりとともに石井さんの画家仲間らも加わるグループ展に発展。来場者や協力者も年々増え続け、行政の支援も。西村さんの強い意志が多くの人々を呼び込み、美術と文化財に触れ合いながら地域文化を伝え、育んでいる点を評価し、これからも後世につなげていってほしい。